



平成22年市議会を振り返って

新藤信夫

平成22年(寅年)も後1ヶ月あまりを残す時期になりました。猛暑に悩まされた夏の夏も過去の出来事になり、冬の寒さに備える季節となりました。インフルエンザの予防接種もすでに始まり混合ワクチンによる新型インフルエンザの対応もなされています。間もなく寒さ厳しい冬の将軍の訪れとなります。予報では寒暖の激しい冬になりそうです。春先には大量の杉花粉の発生が予想される等、健康管理には十分な注意が必要な冬、春となりそうです。

9月7日に起きた尖閣諸島周辺での中国漁船衝突事件を巡り政府の対応のまずさが指摘されていますが、それに引き続いて起きた映像の流出問題も大きな論議を呼んでいます。前原外務大臣が厳正に対処すると言っておきながら中国漁船の船長を早々と釈放してしまっただけで世論は激しく、引き続いて起きた映像流出事件では海上保安官を逮捕したのでは、中国に甘く、邦人に厳しくなってしまう、世論を重視する管政権意図のみで今だに逮捕に至っていない、このような対応のまずさは、政権に対して何とも頼りなさを感ずります。

もう一つの話題はクールビズ

最近の国会中継を見てみるとクールビズ期間中にも関わらず閣僚のほとんどがきちんとネクタイを締めて登壇している。クールビズはどうなったのか。鳩山政権が誕生した去年は、鳩山首相の国連総会での演説で、25%削減発言もあって徹底していたように見えた。さいたま市議会ではこの期間中にネクタイを着用しているものはおらず議場内の室温は29度に設定している。しかし、この夏の国会ではクールビズはどうなりましたか。小池百合子氏も嘆いているように政府の環境政策はどうなりましたか。疑問視される。省エネ家電について来るエコポイントは買い換え需要を喚起した経済対策としての効果は大いには上がっているが、環境対策としての効果には疑問視せざるを得ません。

さいたま市議会においても①敬老祝い金の削減と②学校整備員の縮小が大きな論争を呼びました。敬老祝い金の削減については75歳で1万円、80歳以降は5歳毎に2万円を敬老の日に支給する条例を75歳以上5歳毎の支給に直そうという市長提案であったが、市長と党である民主党、緑の風、未来の会は賛成したものの市内の高齢者団体からの反対が強く否決、今年は何とか去年と同様の支給ができました。敬老祝い金は政令市でも支給していない市が多く見られますが合併前から支給されている祝い金であり、楽しみにしているお年寄りも多く、多くの老人会などから削減反対の意見書が上がって来ていたことから否決され現行どおりの支給が継続できたことは良かったと思います。今回の議論で解せなかつた点が多くあります。



小池百合子 自由民主党総務会長と自民党本部にて

①他政令市の多くが敬老祝い金の制度をやめているのでさいたま市も削減したいとしたこと。②廃止ではなく支給年齢を引き上げて削減を図ろうとしたこと。③一人当り減額支給としなかつたこと。④財政削減をほとんど削減の理由としなかつたこと。ほんとは支出削減の施策の一つであった。等疑問も残りしました。

この条例改正は来年度(平成23年度)も続くことになりそうです。平成22年度に交付団体となつたさいたま市としては、それがたとえ数億円削減であっても経費削減のための条例改正であれば避けて通れないではないでしょうか。



まちづくり委員長報告

もう一つの学校整備員の縮小ですが、これは、今まで全ての小学校に8時間配置されているプールの整備員の整備時間を4時間に減らして、その時間帯は地域のボランティアやPTA等に行ってもらおうとするもので、地域の絆によつてそれを継続しようとしたものです。しかし、この議案は衝突に出されたものであつたことから、本年4月から実施はほとんどの学校で準備整わず見送り、年度後半から30校程度がモデル校として始めています。多くのPTAやその関係者から自民党に多数の反対請願を頂きました。市長は小学校の安心安全の一端を地域の絆で支えてほしいという主旨で提案したもので、理想的な提案であつたが、お母さん方も多くが働いている現状から見ると人員の確保が難しく思えるし、人員確保ができたとしてもPTAや自治会等に大きな負担が生じるように思えます。

この件については、民主党がたいへん奇妙な議論を行っていました。平成13年に大阪教育大学附属池田小学校で起きた児童殺傷事件を契機に学校の安全確保が叫ばれ、さいたま市でも学校整備員を配置して足かけ3年になりました。それ以来市内の小中学校では不審者の侵入などは起きていない、財政削減の観点から整備員を削減しその費用を幼児虐待防止や、交通事故対策に振り向けるべき、ものですが、本来学校の安全は生徒が学校にいる間は100%保たなければならないものです。学校と地域との連携も重要であり強化する必要があります。その一環として市長も言うように地域やPTAの協力を仰ぎたいとしているのに対して、経費の削減に重点を置いて議論していることに大きな違和感を感じました。

前回選挙が終わった直後から行ってきた議会改革実施も軌道に乗って来たところですが、次期選挙に向けて議員定数の削減を再度検討する時期に来ています。現在の議員定数64は法定例数いっぱいであり3年前には60議席まで減らす条例は成立させているのであるが、当初から自民党では10減の54議席が適当であるとの主張をしてきており、12月議会では再度この提案をしています。

また、財政健全化の一策として職員、議員の給与10%削減を打ち出そうとしています。

このように、自民党の市会議員としてこれからも大胆な政策を研究し提案して行きたいと考えておりますので、今後とも皆様からのご意見を頂くとともに、ご協力ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

これでいいの？社会科副読本

さいたま市では小学校の社会科の授業で郷土の歴史や現状を学ぶため教科書とは別に副読本を使っています。市教育委員会が編集した副読本「新しいさいたま市」はさいたま市や埼玉県のことを学習しやすくするために作られたもので、自分たちの住む郷土を大切に、さらに素晴らしい街にしていこうと気持ちを生徒たちに持ってもらうことを目的に作られたもので、小学3・4年生で使われています。しかしその内容には、県庁や市役所の置かれている浦和のことは多少ふれられているものの合併した4市の歴史や成り立ちにはほとんどふれられていません。さらには新幹線のターミナルであり、東北、信越からの玄関口と紹介され、県下最大の商業地域である大宮が、また国の行政機関の集まるさいたま新都心の様子もほとんど紹介されていません。それぞれの地域が歩んできた歴史があつてこそ、今のくらしがあり、将来のさいたま市を開く教本とすべきだと考えます。副読本はいわば参考資料として使われるもので、市民や保護者が声を上げ教育委員会を動かせば内容の変更は可能なものです。将来を担う子どもたちが自分たちの住んでいる町の生い立ちを知り、愛着をもてる街をめざせる副読本にして行くことが大切だと考えます。



決算委員会提言

平成22年10月8日

- 決算委員会では、審査を通じて、各委員より指摘された事務の改善点や、平成23年度予算編成への要望を集約し、当委員会の総意として以下のとおり提言を取りまとめました。
- 執行部では、本提言を実現するとともに、その過程について、本議会への報告などを適宜行うよう要望しました。
- ○市民の資力や生活実態に十分配慮した市税徴収や債権回収を図ること
- ○農業後継者の育成や支援を図ること
- ○ふるさとハローワークの充実など雇用機会の拡大を図ること
- ○学校施設の耐震補強工事を早期完了すること
- ○障害児・者に関する教育・福祉・労働行政などについて、庁内横断的な取り組みを図ること
- ○地域の防犯活動の支援の強化を図ること
- ○市民参加による文化、芸術活動の推進を図ること
- ○DV及びアートDVの防止対策の強化を図ること
- ○多重債務問題への総合的な取り組みの強化を図ること
- ○児童虐待の防止について、庁内組織を強化するとともに、行政と地域の連携を図ること
- ○認可保育所の整備を拡充すること
- ○ジェネリック医薬品の利用促進を図ること
- ○公園用地の積極的取得を図ること
- ○都市型集中豪雨に対する下水道や河川の整備など、浸水対策を推進すること

日進櫛引貯留管工事着工

●事業概要

鴻沼川最上流部の櫛引・日進・大成地区では鞆安通りから桜木調整池に繋がる鴻沼川地下河川が完成した後も集中豪雨等による道路冠水や床下浸水が頻発に起きていました。これを解消するため大成2丁目の精進場第2公園などに内水排除のためのポンプ施設を設置して来ましたが、思ったほどの効果が上がりませんでした。今回の工事では直径2.6mの管渠を約3kmにわたって設置し鴻沼川右岸の台地から流出する雨水をここで受けて貯留し、降雨終了後徐々に配水するもので鴻沼川への負担軽減を図り治水安全の向上を目指すものです。この完成により鴻沼川右岸に発生していた浸水被害はほとんど解消されるものと期待されています。

浸水被害の著しいさいたま市鴻沼川流域の河川沿いでは都市機能が集積しており、地域住民が安心して都市活動ができるよう、緊急的な浸水対策の実施が望まれていました。本事業は日進櫛引排水区において貯留管全線を先行整備し、浸水被害による影響の大きい排水区分から順次分水施設を整備していき、治水安全度の向上と環境整備の促進を図るものです。

●工事概要

本工事は、日進櫛引排水区にシールド工法で貯留管を築造し、計画排水区分のうち4箇所に流入人孔を構築して貯留管との接続管を設置し、鴻沼川へ放流するためのポンプ施設の構築および圧送管の布設を行うものです。

工事件名 日進櫛引排水区下水道工事(北建-21-3)
工事場所 さいたま市大宮区櫛引町1丁目地内外
契約工期 平成21年10月23日～平成24年3月9日



見沼代用水路フェンス取り替え工事

見沼代用水西縁には従来写真「現況」にあるような転落防止用のネットフェンスが設置されていましたが、下流の緑区宮本付近から順次改修が行なわれて来ましたが、今回は、大宮区の一部を含むことから従来からこの改修工事にたずさわってきた福島議員(浦和区)とともに私も地元交渉に当り改修実現の運びとなりました。今後さらに上流に向けて回収工事を進めて、合併記念公園の入口に当たる芝川小学校までの約1kmを改修し付近には桜などを植樹して女性体神社には武蔵一の宮を結ぶ遊歩道として整備して行きます。

見沼代用水路に設置してあるネットフェンスの取り替えは水路沿線の景観等の向上のため間伐材を利用したフェンスに取り替えます。

工事期間中は、工事の都合上、車両通行止めを行いますので、ご不便をおかけ致しますが、ご理解とご協力をお願い致します。

- 工事場所 ① 北袋橋から大原中学校(延長710m)
② 日生浦和団地から大原テニスコート(延長100m)
工事名 見沼代用水路大原地区間伐材フェンス設置工事
工事期間 平成22年10月4日～平成22年12月11日(予定)
発注者 独立行政法人水資源機構
利根導水総合事業所見沼管理所(久喜市葛蒲町)



現況



完了



自民党市議団研修会開催される

さいたま市自由民主党市議会議員団研修会が11月9日午後5時30分から新都心のラフレさいたままで開催されました。当研修会には市内全区から自民党支持者ら約300人が参加、森永卓郎獨協大学経済学部教授をお迎えし、また、来賓としてお迎えした川本直彦前さいたま商工会議所会頭を交えて、講演と意見交換会が行われました。講演では、森永卓郎氏が日本経済について熱く語られました。「日本経済は鉱工業生産指数が落ち込み、円高が進んで工場の海外移転が加速している。円相場はその国の資金供給によって決まるが、アメリカ、EUはリーマンショック後潤沢に資金供給を行い資金がたぶついてレートが下がり、そのような経済政策をとっていなかった日本に資金が流入し円高となっている。日本でもようやく経済が良い方向に向かいつつあり、底を打った感があるが、未だ円高基調に有り、デフレは進行し、失業率の回復までには至っておらず第二の就職氷河期に陥ってしまっている。資金供給によって物価上昇と失業率は大きく変わるもので、経済再生の骨髄は雇用対策を盛んに行っているが、経済(金回り)が良くなれば結果として雇用は良くなって来るものなのです。私は政府に資金供給の緩和を言い続けてきたが、やっとここに来て来年度の物価上昇目標を「1%」に閣議決定。すでに資金供給の緩和を打ち出していた日銀もようやく国債、株式、リートなどの費い入れに踏み切った。アメリカでは金融規制法案が可決され、オバマ大統領は投資銀行などが行っていたマネーゲームをやめさせて経済復興を行う宣言をした。これによって世界経済は安定の方向に向かうのではないかとと思われるが、一方で中国ではオリンピック、万博が終了し経済の停滞を懸念する中、ニンニクや唐辛子などへの投資バブルが発生し、ミニバブルが崩壊しつつあり、今後大型バブルの崩壊に繋がらないよう警戒を強めている。民主党は日本の将来についてビジョンを示していないが、目標を持たずに政策を推し進めることほど危険なことはいない。私は、日本経済の一つの目標はイタリアだろうと思っている。今年に入ってイタリアの一人当たりGDPは日本を抜いた。あの借金大国で労働時間が短く夏休みを1ヶ月も取るイタリアに抜かれたのはショックでしたが、彼らは国においても民間においても大きな改革を行った。それは権限の移譲で、中核は大きな方針を決めそれに沿って末端が事業の決定権を持って執行していくことによって会議などに費やす無駄な時間が大幅に削減され労働者の意欲もまたしたことによって生産性が向上したのである。日本も小さな予算の無駄を削減するために多くの時間を費やすよりも、イタリアを一つの手本として無駄な時間の削減に努めた方がよい効果が生まれるのではないかと。このように時折「べらんめー」口調も交えて1時間にわたって政策や経済についての憂いを語って頂きました。

その後行われた意見交換でも日本経済の将来展望や、さいたま市の雇用対策、インフラ整備の進展など、多くの質問が出されましたが、税収減に悩むさいたま市としては「経済の復興が最大の懸案」であることを結論として盛況の内に研修会を終了しました。

自民党さいたま市議団ではこれからも多くの方々のご参加を得てこのような研修会を開催してまいります。来年も皆様のご参加をお待ちしております。



市民の声

不況が続く日本経済。企業の大規模倒産に伴う高い失業率と平均年収の下落。追い討ちをかける円高・株安。さらには、凶悪犯罪の増加と低年齢化。それでもまだモノはあふれ、私たちは物質的な豊かさに取り巻かれて暮らしています。

実態のないバブル景気が崩壊してしまった今も、私たちはいったん失った自己抑制力を取り戻せなくなっているようです。

そんな中、私ども夫婦で起業した小さな会社も、平成2年度に、初めての赤字決算をむかえ、生活は一変しました。経済的にも時間的にも余裕は皆無となり、当然、主婦の私が外での仕事を余儀なくされました。核家族の我が家では子どもだけで食事の用意をし、親の顔を見ずにソファで寝てしまうという毎日に、優しい言葉の一つもかけられず、さみしい想いを強いられた事と思います。

思春期の頃には、かなりギクシャクした関係であったことは、否めない事実です。

いつでも買える物ができるコンビニエンスストアや、いつでも会話ができる携帯電話等、私たちが便利だと思うモノの普及は、とどまるところを知りません。しかし、どんなものにも、メリット・デメリットは表裏一体で組み込まれています。

自分の都合の良いように解釈し、だらしないことや、決められたことは守るよりも破ることの方が「自由」だと思ってしまう勘違い。

自己抑制力や忍耐力、責任感や連帯感。多くの私たち大人が失ったモノを、子どもたちはしっかりと見えています。本当の自由が、どれ程重いリスクを背負ったものかを痛感するこの頃です。反面教師である末娘も、今年二十歳になりました。来春の成人式には、新調した振り袖姿に用いる未来を期待しつつ、また、この節目の時に子育てを振り返り、反省する機会をいただいた皆様に感謝いたします。

ありがとうございました。

E.I